

全体的な計画 令和03年度

作成者: 間山 有子

大きな家族

事業の目的	すべての子どもたちを人として尊び、そして今が幸せであり、希望あふれる未来を創造する支援を行う。				保育理念	すべての子どもたちを人として尊び、そして今が幸せであり、希望あふれる未来を創造する支援を行う。				
保育指針	小規模だからできる家庭的環境づくりと、個々に合わせたきめ細やかな保育を実践する。				園の教育・保育目標	・元気な子・素直な子・優しい子・感性豊かな子・感謝する子				
子どもの教育及び保育目標(学年の重点)										
乳児	生理的欲求を満たされ、安心して過ごす。				3歳児	色々なことに興味を持ち、様々な環境に自発的に関わる。				
1歳児	保育者との安定した関係のもと、安心して自分の思いを表現し、自分でやってみようとする。				4歳児	主体性を持って過ごす中で、様々な人との関わりに関心を持ち、他者を思いやる気持ちが芽生え、育もうとする。				
2歳児	安心して生活する中で、自我が芽生え十分に表現する。				5歳児	様々な体験を通して、人との関わりを深めながら、人を大切に作る気持ちを育む。				
保育時間など	通常保育7:00~18:00、延長保育18:00~20:00(土曜除く)、短時間通常9:00~17:00				主な園行事	運動会、水遊び、遠足、お芋掘り、クリスマス会、卒園式、日本の伝承に関わるもの等。				
教育・保育要領上の教育及び保育の基本及び目標	教育及び保育において育みたい資質・能力	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	小学校との接続	家庭との連携	特に配慮すべき事項 発達の連続性と養護	小学校以上との接続に鑑みて				
様々な環境や経験を通して主体的に活動に取り組む。	・試行錯誤しながら探求し、挑戦する。 ・様々な経験を通して、お互いを尊重する。 ・様々な体験を通して、豊かな感性や表現を育む。	・健康への関心、社会との関わりの中で、道徳性や規範への芽生えを育み、言葉による伝え合いを通し、共同しながら活動する。	・小学校と様々な機会を設け、交流し、期待感が持てるようにする。 ・小学校と行き来し、スムーズに学校生活が送れるようにする	・家庭と情報を共有し、同じ方向に向かう。 ・子ども・保護者の考え方、価値観を受け止め、尊重し、共に育ち合う。	・生命の保持、情緒の安定を保障した上で、個々に合わせた発達を促す。	・中学、高校、大学生のボランティアを積極的に受け入れ、世代間交流を行う。 ・異文化との交流を楽しむ。				
教育及び保育の基本と目標	様々な体験を通じ、自分で考え、工夫し失敗体験を十分に積み重ね、自信を持って行動する。相手の気持ちに気づき、行動しようとする。									
養護	年齢	乳児	1歳児(満1歳以上)	2歳児(満3歳児)	3歳児	4歳児	5歳児			
	生命の保持	一人一人の生理的欲求が十分に満たされる。	生理的欲求を満たされ、生活リズムが形成されるようにする。	健康で安全な生活習慣に触れる。	生活習慣を知り、自ら行動しようとする。	生活に必要な習慣や態度を身に付け、自信を持って生活する。	基本的生活習慣や態度が身に付き、自主的に行動する。			
	情緒の安定	保育者との愛着関係を築く。	安心して自分の思いを表す。	自我を受け止めてもらい、安心して過ごす。	周りの人に気持ちを受け止められ、相手の思いに気づく。	一人一人の子どもリズムに合わせて、意欲的に活動する。	感情の調整をし、自己肯定感が育つ。			
ねらい及び内容並びに配慮事項										
教育	乳児三つの視点	乳児保育	未満児	1歳児(満1歳以上)保育	2歳児(満3歳未満)保育	3歳児以上五領域	3歳児(満3歳以上)保育教育	4歳児保育教育	5歳児保育教育	
	健やかに伸び伸びと育つ	心身共に満たされ、心地よく過ごす。	健康	一人一人の発育に応じて、自ら体を動かそうとする意欲が育つ	生活に必要な習慣に気付き、自ら行う気持ちが育つ。	健康	生活リズムが形成され、生活に必要な習慣が身につく。	基本的生活習慣が身につく。	自信を持って活動したり、前向きな見通しを持ち生活する。	
	身近な人と気持ちが通じ合う	受容的、応答的な関わりのもとで、信頼関係が芽生え、伝えようとする意欲が育まれる。	人間関係	受容的・応答的な関わりの中で、安定感を持って過ごす。	周囲への興味関心が高まり、関わりを持とうとする。	人間関係	少しずつ相手の気持ちに気付き、様々なルールがあることを知る。	相手の気持ちに気づき、友達と過ごす中で、喜びや悲しみを共感し合う。	友だちと関わる中で、相手の立場に立って気持ちを調整し、きまりを守ったり作ったりする。	
	身近なものとの関わり感性が育つ	応答的な関わりのもと、見る、聞く、触る等の経験を通して、感覚の働きを豊かにする。	環境	身近な環境に親しみ触れ合う中で、様々なものに関心を持つ。	身近な様々な環境に関わる中で、好奇心が芽生え、積極的に関わる。	環境	身近な環境に親しみ、生活に取り入れようとする。	様々な環境に進んで関わる中で、自分で考えたり、工夫して遊ぶ。	身近な事象より、物質や数量、文字に対する感覚を育む。生命の尊さを知り、大切にすること。	
健康支援/状態把握・増進・疾病対応	食育の推進(食育計画別紙)		環境及び衛生管理/安全管理	災害への備え		子育て支援		職員の資質向上	情報公開等	
アセスメント、予防接種の推奨。年2回の健康診断、年1回の歯科検診、蟻虫卵検査、尿検査。嘱託医や地域の医療機関と連携を図る。	地域と関わりながら、生活の中で食への関心を深める。栽培を通して育つ過程の体験、クッキング。行事食や旬の食材、体と栄養との関わりを知る。アレルギー児への関心を持つ。		・施設の温度、湿度、採光、換気を適宜行い、快適に過ごす。 ・事故防止会議を定期的に行い、職員全員共有・徹底する。 ・室内外の消毒の徹底と清掃。	・様々な災害を想定した避難訓練の実施。 ・地域の関連機関との連携。 ・災害時の備蓄品の管理徹底。		地域の子育て機関としての役割を職員全員が自覚し、どんな時でも子育てについて相談できる園となるよう情報を発信し続ける。		自己研鑽の意識と自己を振り返る謙虚さを常に持ち、一人一人が子どもたちの最善の利益となるよう学び続ける体制作り。	保育理念に基づいた地域活動等の情報を発信する他、地域の子育て家庭が必要としている安心して相談できる場としての機能を充実させ、発信する。	
カリキュラム・マネジメントと園児の理解に基づいた評価	・要配慮児童に対する個別支援計画の作成、3歳未満児の個別計画作成を行い、一人ひとりに合わせた細やかなカリキュラム作り。理念・方針に基づいた振り返りを行う。 ・子どもたち一人ひとりの家庭環境・状況等の把握と理解に努め、家庭の状況も含めた支援を行い、職員全体で周知し、同じ意識のもと支援する。 ・個々の職員に合わせた研修参加や援助を行う。									
地域の実態に対応した保育事業と行事への参加	・地域の子育て機関としての役割を認識し、子育てに必要な情報を発信し、安心して寄れる場、相談できる場として子育ての拠点化を目指す。 ・地域の行事や、園と共に地域の子どもたちを含めた様々な機会を設ける。				特色ある教育と保育		様々な遊びの中で、色々な経験や体験を通して五感を十分に使う。人と人との関わりを大切にし、互いを尊重し合う心を育てる。人として大切な非認知的能力に重点を置いた教育と保育を行う。			
研修計画	内部研修を通し、職員全体でのマニュアルの確認・徹底、感染症予防、災害時における迅速な対応が可能となるロールプレイング研修等を行い、周知徹底を図る。エピソード研修や外部研修に参加し、幅広い知識を習得し年数に合わせた研修等を行う。オンライン研修やミーティングを活用し、3園が同じ理念のもとに振り返りや共通理解をする。									
					自己評価等		年2回の自己評価シート記入、年間・月案・日案・日誌の評価を行い、振り返る。人権養護の為のセルフチェックリストを使い、自己を振り返り、保育に活かす。			